

緑の風

JR東労組
NEWS



JR東労組ホームページ

East Japan Railway Workers' Union 2024年4月25日 No.93

福知山線脱線事故 から19年



◆JR東日本の大事故を危惧する声が増！

2005年4月25日のJR西日本福知山線脱線事故から19年が経過しました。犠牲となられた107名の方々のご冥福を心からお祈りいたします。

一方、JR東日本では今年3月、滑走により新幹線が減速しきれず、郡山駅の分岐器を約145km/hと大幅に速度超過して通過、お客さまがケガされる事故が起きました。福知山線脱線事故のような事故を想起し、心配と恐怖の声が多数寄せられています。

協力会社の方々の悲痛な死亡事故も相次いでおり、JR東日本の安全は、かつてない危機的状況です。

JR東日本における、直近一年間での
重大な事故・事象(一部)

- 2023.5 東海道線で貨物線へ異線進入
- 2023.6 内房線で協力会社社員が感電、死亡
- 2023.8 東海道線で列車と電化柱が衝突
- 2024.1 新幹線の架線垂下で長時間運転見合わせ。さらに復旧時に作業員が感電
- 2024.2 横須賀線のトンネルでコンクリート片が剥落、長時間運転見合わせ
- 2024.2 横浜線中山駅で、協力会社社員が駅の屋根から墜落、死亡
- 2024.3 新幹線が滑走し速度超過、約520mオーバーラン。お客さまが負傷
- 2024.4 新幹線で保守用車(確認車)で油漏れ、長時間運転見合わせ

◆異常な職場運営を許さず、「おかしい」と声を上げよう！

昨年末、新幹線統括本部長名で「新幹線を止めない、遅らせない」との掲示が出ました。職場からは「危険を感じても列車を止めづらくなる」との怒りの声が出ています。

一方で職場では「大雪で出勤が困難な社員からの年休申請を拒否し、大幅に遅れながらも出勤した社員を「厳重注意」処分」「『安全研修』において過半数代表者と次期候補予定者が組合批判を展開する」など、異常な職場運営がなされています。各種のハラスメントも未だに聞こえてきており、これでは社員は会社を信頼できず、安全綱領で謳う「安全のためには、職責をこえて一致協力しなければならない」など実現できません。

組織再編や「融合と連携」によって二刀流・三刀流の働き方が求められ、多くの社員が疲弊しています。「安全はトッププライオリティ」と言いつつも言葉だけになっている職場現実を我慢せず、「命」を守るため、「おかしいことはおかしい」と声を上げましょう！

人間味のない職場運営や懲罰的日勤教育では安全を守れない！
「責任追及から原因究明へ」の安全哲学を再確立しよう！